

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	◎	商店街（代表者）	・今期の農作物の収穫量が良いことを期待している。
	◎	旅行代理店（従業員）	・行動制限がないことから、今年の夏の繁忙期は北海道の国内観光需要が新型コロナウイルス感染症発生前に近い水準まで回復することが期待できる。また、7月17日以降、新千歳空港の海外路線が2年ぶりに復便することから、インバウンドも回復の途に就くことが期待できる。ただ、現状、新型コロナウイルスオミクロン株の別系統による全国的な感染拡大が大きな懸念材料となっている。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	・7月中旬以降、新型コロナウイルス新規感染者数が激増しており、その影響が懸念されるが、新型コロナウイルス感染症に対する人々の慣れもあり、特段大きな影響が出ていないことから、今後の景気はやや良くなる。
	○	百貨店（販売促進担当）	・今後、新規感染者数が爆発的に増え、行動制限が掛からない限り、客の購買行動は活発になる。
	○	百貨店（営業販促担当）	・新型コロナウイルス感染症に対する慣れもあり、客の動きは日を追うごとに改善している。今後、新規感染者が落ち着くことで衣料品を中心に動きが出てくることが見込める。
	○	スーパー（役員）	・食品の値上がりが続いているため、値上げ前の買いだめ需要が発生しており、食料品に関する支出が活発になっている。
	○	乗用車販売店（従業員）	・当地は観光都市ということもあり、8月の観光シーズンを迎えることで身近な景気は一段と良くなる。
	○	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・家に籠もってばかりではいけないといった人の動きが感じられる。客足が戻ってきており、今後の景気はやや良くなる。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加していることが懸念材料であるが、行動制限が行われないとみられることから、今後も一定の来客数が見込める。
	○	旅行代理店（従業員）	・全ては新型コロナウイルスの感染状況次第であるが、景気は今よりも良くなることが期待できる。
	○	旅行代理店（従業員）	・夏休み明けの新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、人流抑制策が行われなければ、景気は少しずつ回復することになる。
	○	タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症の第7波もピークを過ぎるとみられるため、多少は景気が良くなる。
	○	通信会社（企画担当）	・例年9月中旬に発売される人気端末による需要を期待している。ただし、前年発売の端末との差異が小さければ、需要の伸びが鈍化する恐れもあり、価格や性能の情報を9月まで待ちたい。
	○	観光名所（従業員）	・利用客の様子をみると、すっかり旅行を楽しんでいる表情を見せている。新型コロナウイルスの感染拡大におびえて委縮するのではなく、感染対策をしながら日常やレジャーの過ごし方のスキルアップを図っていると捉えることができる。こうしたムードは徐々に拡大することになり、人の行動も徐々に活発になると期待できる。
	□	商店街（代表者）	・新型コロナウイルス新規感染者数が増えてきているが、緊急事態宣言などが出されない限り、景気が悪くなることはない。
	□	商店街（代表者）	・一部の商材で値上がりなどの動きもみられるが、日々の客の反応は変わっていないことから、今後も景気は変わらない。
□	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染状況が改善されない限り、景気が良くなるとは判断できない。また、2～3か月後は寒冷期に入ってくるため、燃料価格の高騰が続いていれば、一層の来街者数減少も懸念される。	
□	スーパー（店長）	・前年も7月後半～9月に掛けて、新型コロナウイルスデルタ株の出現とそれに伴う新規感染者数の急増によって、まん延防止等重点措置が適用されるなどしており、新型コロナウイルス感染症に左右される状況は今年も変わっていない。ただ、全体的には若干回復傾向での推移が見込まれる。	
□	スーパー（店長）	・前年は夏のまん延防止等重点措置及び緊急事態宣言が終わった後、年末年始まで比較的売上が堅調に伸びていた。こうした状況を踏まえると、前年と比べて景気が大きく上向く可能性は低い。	

□	スーパー（企画担当）	・食品などの再度の値上げと感染拡大している新型コロナウイルスが現在の活動的な雰囲気に水を差すことになる。消費は2極化するとみられる。
□	コンビニ（エリア担当）	・今後の景気は新型コロナウイルスの感染状況次第となる。感染状況が落ち着くことになれば、観光客の回復が期待できる。そうでなければ観光客の減少が懸念される。
□	コンビニ（エリア担当）	・週単位で世界情勢や国の動向が変化するため、判断できないのが実情である。良い部分があれば、悪い部分もあるため、今後も景気は平行線をたどることになる。
□	コンビニ（エリア担当）	・人の動きが良くなったかと思えば、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えて、再び人の動きが抑制されるという状況が繰り返されている。このため、今後も基本的な景気動向は変化しない。
□	コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数が増えていることから、今後も景気は変わらない。
□	家電量販店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響に加えて、商材の仕入価格の上昇と品不足、入荷遅れなどにより売上が落ちることが懸念される。
□	家電量販店（店員）	・新型コロナウイルス新規感染者数次第で客足が変わってくるとみられるため、今後も景気は変わらない。
□	乗用車販売店（経営者）	・半導体不足に伴う生産遅れからの回復が見込めないため、今後も景気は変わらない。
□	乗用車販売店（従業員）	・新車、中古車共に現状よりも動きが良くなるとは考え難い。物価上昇が今後も続くと、景気が悪くなる方向に向かうことも懸念される。
□	乗用車販売店（従業員）	・秋には新型車が登場する予定だが、車の納期が相変わらず不安定なことから、どの程度の売上を上げることができるか不透明である。
□	自動車備品販売店（店長）	・新型コロナウイルスが感染拡大していることから、今後も景気は変わらない。
□	その他専門店 [造花]（店長）	・仕入価格の高騰による利益の減少が懸念される。来店者が目的の商材以外を衝動買いするような動きもみられないため、プラスαの収益も見込めない。
□	高級レストラン（スタッフ）	・徐々に新型コロナウイルス感染症発生前の来客数に近づいていることから、今後、繁忙期を迎えて来客数が増加することに期待したいが、新型コロナウイルス新規感染者数が増加傾向にあるため、現在と変わらない状況で推移する。
□	タクシー運転手	・新型コロナウイルス新規感染者の数字に人出が左右されやすく、その影響をタクシーは最も受けやすい。新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で今後の新規感染者数が増えることになれば、夜の人出が減ることになり、タクシー利用も減少傾向になる。
□	観光名所（職員）	・来場者は回復傾向にあるものの、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加していることから、今後不安がある。本格的な回復にはインバウンドの受入れが欠かせないため、感染対策に加えて、新型コロナウイルスと共存できる社会の体制作りが求められる。
□	美容室（経営者）	・今後については、新型コロナウイルス新規感染者数による影響を大きく受けない雰囲気があることから、大幅な売上の変動は考え難い。
□	美容室（経営者）	・季節要因や新型コロナウイルス感染症による影響のどちらを考慮しても、今後の景気に大きな変化はないとみられる。
▲	百貨店（売場主任）	・今後の世情の不透明感に加えて、物価高、新型コロナウイルスの感染拡大とマイナス要因がみえ始めており、今後の景気が良くなる気配が感じられない。
▲	百貨店（マネージャー）	・新型コロナウイルス新規感染者数の増加と物価高の影響で来客数及び買上客数の減少が見込まれることから、今後の売上動向は厳しくなる。
▲	スーパー（店長）	・新型コロナウイルス感染症、ウクライナ情勢、物価上昇の影響が強まるとみられる。
▲	スーパー（企画担当）	・店頭での販売価格が上昇し続けており、この状況は秋口以降一段と進むとみられる。既に来客数と買上点数が低下傾向にあることから、この先の消費環境はますます厳しくなる。

▲	高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で今後の景気はやや悪くなる。飲食店においては、第3者認証店を対象としたクーポンの発売が明るい話題としてある一方で、新規感染者数の増大による不安で客離れが進む懸念もある。高級店は当然、厳しい状況が続くそう。ただ、大衆店は弱年層の利用が多いため、売上を落とすという見られる。
▲	旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスオミクロン株の別系統への置き換わりが全国的に進んでいることで、新規感染者数が増加に転じている。旅行のキャンセルこそ少ないものの、新規予約の問合せが減少していることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	タクシー運転手	・新型コロナウイルス新規感染者数の増加により、観光客の予約キャンセルが見込まれ、今後、利用客が減ってしまうことが懸念される。
▲	タクシー運転手	・ここに来て日に日に新型コロナウイルス新規感染者数が増加しており、当地においても連日のように過去最高の新規感染者数が更新されている。このような状況においては、観光客や地元客などの動きも鈍くなると見込まれる。まだまだ先の見えない状況であり、今後の景気はやや悪くなる。
▲	タクシー運転手	・今後も新型コロナウイルス新規感染者数が増えるとみられることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	美容室（経営者）	・物価高のなか、新型コロナウイルスの感染対策で何らかの動きが出てくることになれば、客が出費を抑えるようになる。
▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・今後も新型コロナウイルスの感染拡大が収まらずに推移するとみられるため、景気はやや悪くなる。
▲	住宅販売会社（経営者）	・引き続き資材高、為替安が続くことが見込まれる。コストが下がる要素が余らないため、需要がますます落ち込む状況が懸念され、先行きの景気は厳しくなる。
▲	住宅販売会社（経営者）	・金利の先高観と物価高から、今後の住宅需要が縮小する心配がある。また、商談に要する時間が長くなっていくことも懸念される。
×	商店街（代表者）	・期待していたGo To Travelキャンペーンのような全国旅行支援が延期となり、当地では落胆を隠せない状況にある。事業開始が秋以降となれば、北海道は冬のオフシーズンとなるため、他地域に客が流れ、恩恵が受けられないことになる。北海道向けの救済策を本気で考えていただきたい。こうした状況は前年から続いており、北海道の季節性を考えない施策には疑問がある。落ち着いた春から事業をスタートし、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加した際に事業を止めれば良かったのではないか。
×	一般小売店〔土産〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波での異常なほどの感染拡大によって、国民の行動を大きく制限しなければならなくなるのが懸念されるため、今後の景気は悪くなる。
×	スーパー（従業員）	・今後については、売上の減少に加えて、人件費、電気代の上昇により、収益が減少することが懸念される。
×	衣料品専門店（店長）	・ビジネスパーソン相手の商売は時事情勢に大きく影響される。プラス要因がなく、マイナス要因ばかりが大きく報道されている現状から、今後の経済活動が停滞し、消費が一気に冷え込むことが懸念される。
×	スナック（経営者）	・景気が段々と悪くなっているなか、今後、新型コロナウイルスの感染状況が拡大し、以前のような行動制限が出てくることになれば、景気はますます悪くなる。
×	観光型ホテル（経営者）	・指定感染症における新型コロナウイルスの分類変更の見直しが進まないなか、感染拡大が続いていることで、再び行動制限が課されることが懸念される。観光事業を復活させるためのロードマップが存在しておらず、全国旅行支援が開始される見込みもないため、今後数か月は観光関連の景気が悪化することになる。また、コスト高による収益圧迫が見込まれることもマイナスである。
×	観光型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルスの感染拡大が報道されるようになるとともに、感染や濃厚接触といった理由でのキャンセル連絡が増えていく。予約の勢いが落ちており、全国旅行支援も延期となったため、先々の予約が上向く要因もない。また、インバウンドの受入れが再開されたものの、目立った恩恵もみられない。

	×	タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症の影響で、行動制限の有無にかかわらず人出が減ると見込まれる。第7波の感染力の強さは行動自粛を誘発する要因となり得るため、今後の景気は悪くなる。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	家具製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大の状況次第ではあるが、今よりは状況が収まっているとみられるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	建設業（経営者）	・秋になって工事がフル稼働の状態になることから景気はやや良くなる。ただ、人手不足や資材の納入遅れが懸念される。また、油や生コン、鉄などの資材価格の上昇がどの程度原価に影響を及ぼすか見通しが立たないことも不安材料である。
	○	建設業（役員）	・上半期はフル稼働状態が続くため、好調に推移することが見込まれる。ただ、円安や物価高による燃料、資材の価格高騰と品不足が工事原価や工期に影響を与えることが懸念される。
	○	通信業（営業担当）	・原材料の価格高騰というリスク要因はあるが、経済活動の維持に伴って今後も需要が底堅く推移するとみられること、アフターコロナに向けた本格的なICT関連の投資が着実に浸透し、進展していることなどから、この先の景況感は現状よりもやや上向くことになる。
	○	司法書士	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う工場閉鎖、ウクライナ情勢によって資材の輸入や流通に影響が出ていることなどから、建築関連の業種においては販売できる量が制限されているが、しばらくは緩やかな上昇が続くことになる。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・新型コロナウイルスオミクロン株の別系統による第7波が生じているものの、経済活動の抑制は限定的である。世界的な見地からも我が国の経済活動の活性化が遅れるわけにはいかないため、感染対策を強化しつつ、景気回復に向けた経済活動が維持されることになる。
	□	食料品製造業（従業員）	・前回の価格改定の影響で販売量は減っているが、価格改定自体は客に受け入れられている。ただ、原材料費や光熱費などの値上げが続くなか、再度、価格改定を行うことを検討しており、その影響がどうなるかが不明である。
	□	金融業（従業員）	・個人消費は新型コロナウイルスの感染拡大や消費者物価の上昇が重荷となり、持ち直しの動きが減速する。住宅投資や公共投資も資材価格の高騰などに伴って、減少が続くことが見込まれる。金利引上げにより世界経済の景気後退懸念が高まっていることもマイナスであり、3か月後の道内景気は横ばいとどまる。
	□	司法書士	・円安が解消され、ウクライナ情勢が解決しない限り、景気は現状のまま変わらない。
	□	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・人手不足が常態化しており、新たな人材確保も困難を極めている。売上を拡大することが困難な状況となっていることから、今後も景気は変わらない。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・多品種の商材で値上げや更なる値上げの話などがあり、今後、客の購入がシビアになることが懸念される。
	▲	建設業（従業員）	・案件が減りつつあるなか、価格上昇の影響で案件がますます減ることが見込まれる。改善される兆しもないため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	輸送業（支店長）	・新型コロナウイルス感染症の第7波によって、今後の一層の感染拡大が懸念されるため、景気は下向くことになる。
	×	食料品製造業（従業員）	・売上が上がらないなか、原料やエネルギーなどのコストが異常な勢いで上がっているため、利益が減っている。状況は悪くなる一方であることから、今後の景気は悪くなる。
×	金属製品製造業（従業員）	・エネルギー価格や原材料価格の高騰、ウクライナ情勢の長期化、半導体不足の影響がみられるほか、新築住宅確認申請も前年比で20%程度落ち込んでいる。景気が良くなるような要素が見当たらないことから、今後の景気は悪くなる。	
×	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・新型コロナウイルス感染症対策の融資を受けた企業において、融資の返済ができず、倒産寸前の会社が増えることが懸念される。	
雇用	◎	—	—

関連 (北海道)	○	求人情報誌製作会社（編集者）	・当地域の基幹産業である農業が収穫繁忙期となり、関連業種である運送、加工、小売業も景気が良くなると見込める。ただ、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加による影響が心配される。
	○	職業安定所（職員）	・当地における月間有効求人数が1年3か月連続で前年を上回っているなど、全体としては回復の兆しがみられる。ただし、産業、業種によってその度合いが異なっており、今後の新型コロナウイルスの感染状況と経済活動、消費行動の状況によっては先が見通せない状態となることも懸念される。
	○	学校〔大学〕（就職担当）	・今後の景気回復を妨げるような大きな要因が見当たらないことから、新型コロナウイルスの感染状況が深刻な状況とならない限り、景気の安定が図られることになる。
	□	人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルス感染症の影響が心配だが、景気が大きく下振れする要因も見当たらないことから、夏場は景気の持ち直しが期待できる。そのため、9月末の上半期終了までは現状のまま推移する。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響がどこまで長引くかにもよるが、基本的に採用意欲は旺盛なまま推移する。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・新型コロナウイルス感染症の影響を受けやすい業界において、第7波の影響を懸念する声が強くなっていることから、今後も景気は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・原油価格や原材料価格の高騰など、経営環境の悪化を招く要因は多いものの、今のところ業況が堅調な事業所からの求人もあり、新規求人数は維持できている。新規求職者数が前年から減少していることも持ち直しにつながっている。新型コロナウイルス感染症の第7波による経済への影響は懸念されるものの、今後も景気は変わらないまま推移する。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・円安や物価高に加えて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、今後の経済活動がやや滞ることが懸念される。
	▲	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染拡大、ウクライナ情勢の長期化など、今後の景気が良くなる要素がない。
	×	—	—